

慶長之役合戦図屏風

豊臣秀吉による朝鮮出兵のうち、慶応3年の泗川城塞における島津軍奮闘の様子を描いた六曲一双屏風。

尚古集成館本

- ・中島信徴による箱書

島津家久（1579～1638）由来の屏風→島津忠義の命で木脇啓四郎が模写（明治24年）→眼疾による中断（明治25年9月）→中島信徴が制作引き継ぎ→島津忠義の死（明治30年）→忠重の命で完成（明治36年12月）

- ・木脇啓四郎の書き留め

花岡島津家伝来で、第3代藩主島津綱貴の三男久儔（1687～1729、花岡島津家の初代当主）が三年かけて描いた屏風→木脇啓四郎が磯邸にて模写（明治24年11月）→ランプの灯で右目を傷め中断→中島信徴に制作を引き継ぐ。

木村探元本

薩摩藩の絵師、木村探元（1679～1767）が描く。

『探元畫集』（大正15年発行）掲載時は玉里島津家所蔵

永井慶竺本

都城島津家の絵師、永井慶竺（1685～？）が描く。

『都城古今墨蹟集』（昭和2年発行）掲載

宮之城島津家当主久通（1605～1674）？由来の屏風→久儔が模写→都城島津家当主久龍が永井慶竺に筆写を命じる（享保4年、1719）

※「島津氏通翁」は島津久通と推測される。

※久儔の弟、久方（綱貴の五男）は宮之城島津家の久洪の養子となる。

少なくとも6点の屏風の存在から島津家にとって重要な事績、武勲であったことがわかる。

島津家久由来

島津久通？由来

島津久儔本

木村探元本

永井慶竺本

尚古集成館本（木脇啓四郎→中島信徴筆）

木村探元筆「鞆修復の図」

慶長の役での島津忠恒（家久）と宮之城島津家家臣、和泉勝左衛門保重の美談

慶長之役合戦図屏風にも同じ場面が描かれている。

木村探元の墓

幸加木神社（鹿児島市小野町）にあり。大正9年に松原山南林寺墓地から改葬される。

同神社は、木村家の先祖、北条泰家が熊野三社権現を勧進したもの。

税所文豹（?～1852）

木脇啓四郎の絵の師。名は篤之、龍右衛門と称す。調所改革時に京都詰金方・見聞役を務める。妻は歌人の税所敦子。

「税所厚子君の亭主ハ、税所龍右衛門とて拙者の絵の師匠也。故に、京都にて近衛様御屋敷桜木町江有。爰へ屋しき番に居られたり。拙者も度々の上下に立寄りざるハなし。」

「税所龍右衛門文豹先生ハ画の師匠也。故に京都桜木町に近衛様の別荘有。爰ニ尋行候処、厚子との夫婦共に至極丁寧に預りたり。」 —『萬留』—

「古画事御修業被成候半、御在宿等之節ニ者茶器之御写生被成度、是ハ合作又ハ席画等ニ者一寸と風流めきておもしろきものニ御座候。隅田川邊、上野邊、しのぼすの池などハ御序ニ御写被成度奉存候。」 —「啓四郎宛の税所文豹書簡」（弘化元年か）—

木村探元の遺徳碑

薩摩藩の絵師、木村探元（1679～1767）の130年忌にあたる明治29（1896）年に有志（賛助員139名と首唱者15名）によって松原神社に建立された。

賛助員のうち

木脇啓四郎（1817～1899）

平山季雄（東岳、1834～1899） 四条派 師は長谷川玉峰、塩川文麟、甲斐東溪
松山隆阿弥門人 平田鉄胤に入門（1857年） 精忠組に参加（1859年）
島津久光の中小姓として上京（1862年） 薩英戦争の西瓜売り隊（1863年）
鳥羽伏見の戦い（1868年） 種子島地頭（1869年） 美々津県典事（1872年）
西南戦争で西郷軍の専使（1877年） 鹿児島県御用掛庶務課記録掛（1879年）
宮内省御用掛侍医局出仕（1884年）

中島一三（信徴、1836～1906） 狩野派 師は馬場伊歳、森養淳

生野の変（1863年） 栗原信充、木脇啓四郎らと霧島旅行（1864年）

「二の丸出版工房」にて栗原信充の著作出版に従事

第2回絵画共進会に巨勢派として出品（1884年） 玉里島津家に出仕する

橋口兼満（?～1901） 元藩医 橋口五葉の実父

木村探元の口述筆記『三暎庵主談話』の筆記者、橋口善兵衛兼珍の子孫

首唱者のうち

内山四郎右衛門（一観、1823～1897） 狩野派 能勢一清の息子

江口親雄（暁帆、1839～1911） 狩野派 師は佐多椿齋

鹿児島県十一等絵師助（1869年） 日向、大隅、薩摩を巡回し写生（1872年）

内務省地理局測量課員として小笠原諸島を測量（1881年）

第2回絵画共進会に狩野派として出品（1884年）

参謀本部陸軍部測量局技生（1886年） 島津家臨時図画取調嘱託（1906年）

小松文雄（甲川、1861～1938） 狩野派 佐多椿齋の息子

鹿児島県師範学校（1878年） 外務省記録局（1884年） 警視庁（1887年）

鹿児島尋常中学校（1895年） 県立第一高等女学校（1908年）